



創立昭和28年1月8日

TANABE ROTARY



District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

2019-20年度
国際ロータリーテーマ
「ロータリーは世界をつなぐ」
-ROTARY CONNECTS THE WORLD-
マーク・ダニエル・マローニール1会長
国際ロータリー第2640地区
中野 均ガバナー

4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
- (1) 真実かどうか
 - (2) みんなに公平か
 - (3) 好意と友情を深めるか
 - (4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
例会場 ホテル・ヴェスト南紀田辺
会長 白井 浩
幹事 古谷 典子
会報委員長 山路 守
<http://tanabe-rc.com/>

承認 昭和28年3月2日
事務所 〒646-0031
田辺市湊23-6
TEL 0739-24-2002
FAX 0739-26-0264
mail tanabe-rc@helen.ocn.ne.jp



「高野山「東塔」と紅葉」
撮影 柏木壽夫会員

●司会者

白井 浩会長

●ソング

我等の生業

●ゲスト

元ロータリー財団国際親善奨学生
和歌山県立新宮高等学校
教諭 松下 愉久 様

●ビジター

12月5日のプログラム

年次総会
会員卓話
東 冬彦 会員
「幸せに元気に長生き」
～下半身を鍛えよう～

12月12日のプログラム

田辺税務署
署長
野間 剛 様

出席報告

	第3268回	第3269回	第3270回
会員数	85名	85名	85名
出席規定免除会員数	7名	7名	7名
出席計算会員数	83名	82名	82名
出席者	60名	51名	52名
出席率	72.29%	62.20%	63.41%

メイクアップ

11月26日 木村勝 (和歌山RC)

お祝い

会員誕生日 多屋平、三前剛、吉田哲
配偶者誕生日 竹中加代美 (幸一)
結婚記念 坪井、瀬戸

ニコニコ箱

☆元ロータリー財団国際親善奨学生:新宮高校教諭松下
愉久様、本日の卓話宜しくお願ひします。・白井、古谷
☆松下愉久様、本日の卓話よろしくお願ひします。……

……………溝口、杉若、玉井、近藤、堅田、
玉置、柏木、大木、脇村明、橘、山路、原見、平尾、瀬戸

☆本日の卓話、新宮高校教諭と聞きニコニコしています。

私は昭和31年新宮高校卒業生です。……………渡部
☆弁慶映画祭が無事終わることが出来ました。皆様
のご支援ご協力、誠にありがとうございました。中田吉
☆先週、11月21日午後より貯めたマイルで3年遅れの還
暦旅行としてシンガポールと香港に家内と行ってき
ました。香港はデモの影響で空港付近しか行けず、空
港は団体客も無く閑散としていて帰りの飛行機は40
人しか乗っていませんでした。……………柏木

お知らせ

会長報告

- ・11月22日に行われました田辺・弁慶映画祭オープニングセレモニーと24日に行われました表彰式へ出席して参りました。また、皆様には大勢御鑑賞頂きありがとうございました。
- ・財団寄付により廣本喜亮会員が、第2回マルチプル・ポール・ハリス・フェローに選ばれました。国際ロータリー日本事務局より認証の記念品としてピンが届いていますので、お渡しします。

幹事報告

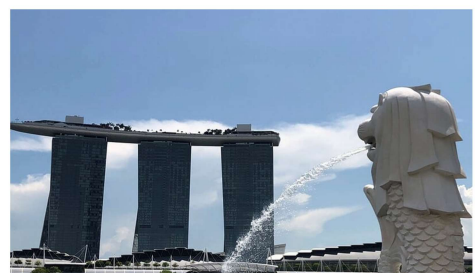
- ・紀の国トレイナート実行委員会からの礼状、みなべ町立高城中学校より届きました社会奉仕補助金事業のiPad寄贈への御礼状、ハイライトよねやま、近隣クラブの会報を回覧します。

委員会報告

野球部

橘 一徳会員

- ・本日例会終了後、打合せを行いたいと思いますので野球部の方は、この場にお残り下さい。



撮影 柏木壽夫会員

『ロータリー財団月間に寄せて』



村上有司パストガバナー

今月は、ロータリー財団月間です。私のガバナー年度(2009-2010年度)に、ロータリー財団国際親善奨学生として米国に留学され、現在は新宮高校の教師をしておられる松下愉久先生にお話をさせて頂きます。



2009-2010年度
元ロータリー財団国際親善奨学生
和歌山県立
新宮高等学校
教諭 松下 愉久 様

私は本州最南端の串本で生まれ育ちました。研究分野で医学博士を取得した後、串本ロータリークラブ推薦で2010年にロータリー財団2640地区国際親善奨学生として、米国ジョンズホプキンス大学に研究留学しました。このジョンズホプキンス大学は、ワシントンDC近郊の都市ボルチモアに位置しています。21年連続で全米No.1の病院に選ばれた医学部では非常に有名な大学です。



ジョンズホプキンス大学病院の前で

そこで6年間に渡って膵臓がんの研究を行い、最近論文を発表することができました。研究は臨床と基礎医学を繋ぐ研究で、ありがたいことに雑誌の表紙に私の研究が掲載されるという榮譽にあずかることができました。米国でのロータリー財団のサポートは手厚く、現地のロータリアンはアパートが見つかるまでホームステイをさせてくれました。それに加えて、アパートを探すのを手伝ってくれたり、家具やベッド等の生活必需品を貸してくれたりしたのです。奨学生としての活動は主として、スピーチを各ロータリークラブで行うことでした。スピーチはボルチモアとワシントンDCで7回に渡って行いました。例えば、ホワイトハウスに近いロータリークラブで串本のことを発表し、オバマ大統領(当時)を串本にぜひ来て欲しいとお願いしました。沢山の写真をお見せしたかったのですが、写真が実は殆ど残っていないのです。というのは、私のアパートにドロボーが入り、写真を保存したパソコンが盗難にあったからです。

このように恵まれた環境で研究を行なっていたのですが、大学生や大学院生を教える機会もありました。教えることにやりがいを感じ始めていた頃、一人の学生が「今までの先生の中で一番よかった」と言ってくれました。初めは本当かなと半信半疑だったのですが、彼が母親を連れて私の研究室まで来てくれたのです。そのことで教えることに自信を持ち、真剣にキャリア変更を考え始めました。よくよく考えてみると、フィリピン、ラオス、カンボジア等、発展途上国にボランティアに出かけ、いつか自らの専門性を活かして長期間ボランティアをしたいと心に決めていました。当時は自分の専門性を活かして何のボランティアをしようか分からなかったのですが、途上国の子ども達に実験を教えるために、青年海外協力隊に応募することを決めたのです。

結局私は、エチオピアに青年海外協力隊理科教育隊員として赴くことになりました。エチオピアは非常にユニークな国で年間230日断食(動物性の食物を食べることが禁じられている)あったり、今年が2012年と7年遅れであったりします。何より植民地になったことがないアフリカで唯一の国で、他のアフリカ諸国の憧れの的になっています。その証拠に、エチオピアの国旗を真似ている国々があり、アフリカ連合の本部もエチオピアにあります。私はそんなエチオピアで、中学生の授業への理科実験の導入を中心に奉仕活動を行いました。最も力を入れたのは手作り顕微鏡です。顕微鏡は高価なため、各学校に一台あればいい方で一人一人の生徒が観察することは不可能でした。そこで、一人一人に手作り顕微鏡を作成し、スケッチしてもらいました。これをエチオピア第二の都市すべての小学校で行いました。その他にも、潮岬中学校とエチオピアの子ども達を繋いだり、貴志中学校の生徒が寄付してくれた理科実験器具やピアノカを使ってもらったり



手作り顕微鏡を使ってスケッチした細胞を誇らしげに見せる子ども達



エチオピアのロータリークラブと串本ロータリークラブのバナー交換

もしました。ここエチオピアでもロータリー財団の方々、大学でがんの講義をする機会を得る援助をしてくれたり、エチオピアの教育に関する講演を日本人ボランティアに対して行ったりしてくれました。世界各国のロータリアンの活動によって、多くの人々が恩恵を受けていることを日本、米国、エチオピアで実感しました。